

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2021年 1月 31日

所属：教育文化学部 学校教育課程 4年

氏名：丸井柊都

派遣先大学名（国）セント・クラウド州立大学（アメリカ）

在籍身分：交換留学

派遣期間：2020年1月～3月

渡航年月日：2020年1月6日

帰国年月日：2020年3月25日

○派遣先大学における授業等の履修状況

【時間割】

	9:30-10:45	11:00-12:50	14:00-15:15	15:30-16:45
月	Hospitality and Tourism Marketing	EAP reading and writing		
火		EAP listening and speaking	Testing for Second Language Learners	ESL and culture
水	Hospitality and Tourism Marketing	EAP reading and writing		
木		EAP listening and speaking	Testing for Second Language Learners	ESL and culture
金				

【授業内容】

- ・ EAP：エッセイライティング、リスニングとスピーキング
- ・ Hospitality：観光業と市場について
- ・ Testing：評価の仕方
- ・ ESL and culture：英語教育と文化

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

授業は英語系のクラスを主に履修しました。留学生向けと学部生向けの授業をどちらも取っていましたが、やはり学部の授業は日本人学生もほとんどおらず、レベルの高い授業でした。どの授業も話し合いの活動が盛んでしたが、学部の授業では回を重ねてもなかなか進んで話すことは難しかったです。授業以外でも、生活する上で英語は絶対必

要なので、自然と英語力は伸びていった気がします。

留学で学んだすべてのことを通して、まずは英検やTOEICなどの英語の資格で高得点を取りたいです。自分の英語力を確かめ、可能であれば就職活動にも活かしていきたいです。私は英語教員を目指していますが、教師としての必要な教養以上に、留学を通して身につけた英語スキルの高さと異文化などの国際理解を私の長所としてこれからの学習、就職につないでいきます。

○生活面について

私は大学構内にある学生寮で生活していました。寮にはキッチンやシャワー、トイレ、洗濯機が共有で使えるようになっており、私も留学の後半からは自炊をするようになりました。外食やウーバーを使った食事も多く、他の留学生と一緒に食べていました。

授業外では主にアジア系の留学生と一緒に行動することが多かったです。買い物に行ったり、大学のイベントと一緒に参加したりしました。最初は彼らともコミュニケーションを取ることが難しかったですが、私の英語を理解しようとしてくれたり、他の人が言っていることを私に通訳してくれたり、とても優しい人達でした。

○その他留学全般にわたる感想

正直、授業に関しては、授業の内容は良くて半分理解できた程度かもしれません。しかし授業で行ったすべての活動が私の英語力を高めてくれたと実感しています。

またアメリカ文化をはじめとする様々な異文化に直接触れ、時には日本文化を紹介することで、多様な文化への理解を深め、文化を通してたくさんの人々と交流することができました。向こうでつくった思い出はたくさんありますが、そのどれもが私にとって新鮮で私の英語、文化、世界に対する視野を広げてくれるものでした。



○渡航費補助について

(様式2)

今回の留学にわたって、費用の一部を支援してくださりありがとうございました。おかげでたくさんの素晴らしい経験を得ることができました。私は大学生のうちに留学に行ってみたくずっと思っていたのですが、経済的な負担のためどうしても決断の前に一歩踏みとどまっていました。しかし、今回の支援を受けて決意することができました。

留学には個人にとってメリットやデメリットがそれぞれあると思いますが、実際に留学してみなければ分からないことや得られない体験などがたくさんあると思います。私のような学生のためにぜひこの支援を続けていけるように、私も留学の魅力について在学中にできる限り発信していきたいと思えます。

改めて、今回の支援について深く感謝申し上げます。